

みやけの風

第 204 号

平成16年(2004年)12月25日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

今年の『みやけの風』も、最終週となりました。一年間ご愛読いただきまして、誠にありがとうございました。来年は、避難指示解除と大きな変化が待っています。どうぞ、皆様お氣をつけて、穏やかな新年をお迎えくださいますことをお祈り申し上げます。

みんなの声

「みやけの風」発刊200号、 第9回ふれあい集会によせて

「みやけの風」を発刊して200号になります。全島避難以来、それだけ長い時間が過ぎてしまったということになります。帰島の決断が成され、来年早々に、帰島が始まることになりました。今まで、何度も、厳しい自然の猛威に直面して来られましたが、こんなに長期にわたる全島避難は初めての体験であったと思います。余りにも環境の違う生活、知らない人々との暮らし、いつ島に戻れるのか分からぬ不安などを抱えて、厳しい試練の時を過ごされました。

そんな時、島の皆様との交流、情報交換のひとつの手段として、この「みやけの風」が皆様の支えとして、200回、お手元に届けられたことを思い、心からの感謝です。これから、島にお帰りになる人、こちらに残られる人、それぞれに大きな決断をされたことと思います。何処で生きてゆかれるにせよ、これからも、この「みやけの風」が皆様の「三宅の心」をつなぐ細い糸として皆様にお役に立てただけのことを心から願っています。

「第9回三宅島島民ふれあい集会」を持って『ふれあい集会』を終了させていただきました。元気なコーラス、太鼓、獅子舞、あしたばやくさやの美味しい匂い、大勢の皆様が参加してくださいました。皆様のご協力を心から感謝しております。皆様の笑顔に励まされました。

どうか、お体を大切にされ、希望を持って生きていかれることを心から祈念いたしております。ありがとうございました。

(三宅島災害・東京ボランティア支援センター代表
東京ボランティア・市民活動センター所長
山崎美貴子)

三宅島災害・東京ボランティア 支援センターの皆さまに感謝

避難して間もないあの混乱期から、私たち島民を励まし支えてくださった、三宅島災害・東京ボランティア支援センターの皆さま、永い間いろいろお世話になりました。

日本のあちこちに離れ離れになって途方に

くれていた時期に、『ふれあい集会』を開催していただき、島を離れて以来の再会ができ、どれほど安心したことが、あの頃は、慣れない都会生活に多くの方が不安を感じていたこともあり、涙の再会でした。

そして、第9回目の「ありがとうのふれあい集会」は、笑顔がいっぱいの集会でした。4年半ぶりで三宅島へ帰れる私たちを、励まさせてくださったボランティアさんたちをはじめ、多くの方たちに「お陰様です、ありがとうございます」の思いがいっぱいでした。

『島民電話帳』作成にあたっては、アンケートを取ったり集計したり、夜通しするほどのご苦労があったと聞かされました。電話帳ができた時、どれほど嬉しかったことが、どれほどの安心があったことが、初めて『電話帳』を手にしたときの、「さて、誰に電話しようかな」と、うきうきした思いを今も忘れていません。

そして『電話帳』を使っただけの『みやけふれあいコール』。様子伺いや情報交換が、十分な時間をかけて出来、時には懐かしさのあまり、三宅島でいた時のように、「歌を歌うから聞いてくれる？」と聞いて聞かせる人もいました。ある時は、「長話をして悪いかから、一度切ってかけなおす」と心配するほどに、たくさん話をしました。「話したいことがこんなに沢山あったのか」と思うこともあり、「ふれあいコール」を続けていてよかったと思いました。こんな機会を与えてくださった皆さまに感謝の思いでいっぱいです。帰島の準備をするので、私自身は『コールボランティア』も今年で終わりがな？と思っている私です。感謝、感謝、感謝 (八王子市 阿古 鈴木則子)

山古志村へメッセージを

三宅島災害・東京ボランティア支援センターの計らいによって、日帰りで新潟の長岡まで、山古志村の村長さんにお会いして来ました。第9回三宅島ふれあい集会に参加された方々に、沢山のカードに書いていただいた山古志村の皆さんへの思いを、事務局の方が手配して、布に印刷して素敵なタペストリー(壁掛け)に仕上げてくださいましたので、そのメッ

セージをお届けするためです。

村長さんは、とてもお忙しい日程のなかを私たちのために時間を作って下さいました。そして同じ自然災害の中での大変さを、村長さんのお顔から察し、4年前の私達と重なってしまい、失礼ではありますが、同じ同志仲間という親近感を感じて参りました。本当に村民の事を心から心配をしておられました。

「山古志村は緑豊かな心の癒される故郷作りに頑張ります。三宅島は、海の美しい故郷再生に頑張ってください」と、私たち三宅島島民にも、心配りのエールを下さいました。

今回私は、自分たちが過ごした4年間の避難生活の事を、これから避難所生活をされる山古志村の皆さんにお伝え出来たら良いなと思い、上原事務局長一行にご一緒させて頂きました。

数多くのボランティアの皆さんに支えられ

て、今日の私たちがあるということ、そして私たちがそれにどう答えようと思っているか等を、山古志村の皆さんに伝えたいと思っていました。また、実際に日頃どの様に過ごしていたか等も話したいと思い、いきいきサロンで作った作品もメッセージを付けて少々持って出掛けました。

対価を望まないボランティアの方々が喜んでくれる事は、私たちが少しでも明るく元気で過ごせるようになること。そしてそのボランティア精神を、次の誰かに伝えられるような人間になることだと思っています。それが皆さんから受けたご支援に対する恩返しとさせてもらえるのではないだろうか。その第一歩として、私はその思いを山古志村の方々へ繋いでいけたら・・・と思っています。

(港区港南 神着 早川マス子)

～ 山古志村のみなさんへ 三宅島より 激励訪問 報告 ～

11月28日(日)の「第9回三宅島島民ふれあい集会」のなかで、新潟県中越地震によって全村避難となった山古志村のみなさんへの気持ちが寄せられ作られた「寄書き」を、去る12月21日(火)、山古志村の長島忠美村長に手渡しました。

訪問にあたっては、以前激励訪問をされ、その後も交流を続けている三宅島の平野祐康村長に意向をお伝えする労をとっていただきました。贈呈には、三宅島島民が山古志村のみなさんへお届けするという趣旨から、三宅島社会福祉協議会の寺本達会長を含む「第9回三宅島島民ふれあい集会」島民実行委員の中から有志を募らせていただき、事務局とあわせて三宅島島民連絡会の方も同行され、総勢10名が参加しました。

初雪の降る中、越後湯沢駅から車に乗り換え長岡市内にある山古志村役場長岡事務所に向いました。車窓から、懸命に復旧作業を行っている地元住民の姿や被害を受けた家屋が目映る度に、同行された三宅島島民有志の方々は、口々に心配の言葉とあわせて心配する気持ちを寄せられていました。

山古志村役場にて長島村長に面会し、島民有志の方々から寄書きが贈呈されました。長島村長は、「三宅島のみなさん自身、これから帰島というとても大変な時に気持ちを届けて

いただいて本当に嬉しい」と話され、贈呈された寄書きに込められたメッセージを見つめておられました。港南三宅島会からの方からは、自身の避難生活の中で「たくさんの優しさを感じて、気持ちが支えられたことを本当に嬉しく思っています。私たちからも山古志村のみなさんへ気持ちを届けたい」と、避難先で手作りされた「匂袋」が贈られました。

その後、島民有志の方から、「故郷を想う気持ちは同じです。お互いに大変な困難の中ですが、希望を忘れずに過ごしましょう」とあたたかいエールが贈られ、長島村長は「三宅島は海、山古志は棚田、海と山の違いはあるけれど必ず美しい山古志村を取り戻したい」と話され、「寄書き」に気持ちを込めていただいた全ての皆さんに、本当に感謝と感動をありがとうございましたと話されました。

退室の際には、訪問に訪れた10名一人一人と硬く手を握り、言葉を越えた気持ちの交換がなされ、山古志村役場を後にしました。

「寄書き」を寄せていただいた皆様、「第9回三宅島島民ふれあい集会」を支えていただいた全ての皆様、この度の激励訪問にご協力いただいた皆様に心からの感謝を込めてご報告申し上げます。

(第9回 三宅島島民ふれあい集会実行委員会事務局 三宅島災害・東京ボランティア支援センター)



三宅島災害・東京ボランティア支援センターの年末年始

事務局では、年末年始のお休みを次の通りいただきます。

2004年12月29日(水)～2005年1月5日(水)

みやけの風新年号は、1月8日(土)発行・配信となります。来年も引き続き、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。なお、これまで『みやけの風』をお送りしてきたお宅で、三宅島への先行帰島などで番号が変わった方は、新しい番号を事務局までお知らせください。また、新たに配信をご希望される方も、お気軽にお知らせくださいませ。(三宅島災害・東京ボランティア支援センター)

TEL : 03-3260-7573 FAX : 03-5229-1646

